



▲ホタルが飛び交う「おがる石」近くの小川



▲5月25日に行われた清掃活動。積み上げられたゴミの山を前に、参加者の皆さんが、「本当に心ないねえ」と口々に話していました



▲6月28日に実施された「ホタル観察会」。天候には恵まれなかったものの、約150名もの皆さんが参加しました

○尾篋地区は、とてもまとまりのよい地区ですね。

「福岡地区の体育大会で、尾篋地区は、13年連続優勝なんです。老人会の皆さんもみんな和気あいあい活動も活発ですし、青年会の皆さんも年に一回の夏祭りを中心に、いろいろ地域を盛り上げています。女性部もサロン・サンサンもそうですが、地区の皆さんが上手に分かり合って一つになって、いざというときに、『鉄の結束力』というか、団結力が強くて、それが地区の総意による『守る会』結成にもつながったと思うんです。」

「普通の発想だと思っただけです。おたがいさまですね。」

「それから、近くにセコム工業のプラント工場があつて、常夜灯が何本かあるんですが、光が出るホタルのカップルがでかかないというので、セコムさんのご好意で、今年、電気を消してもらつたんです。セコムさんには、法人会員になつてもらつています。」

守る会の皆さんは、最初の活動として、5月25日に約80人が参加して、付近の山林や道路わきの清掃活動を実施されました。

○まずは、環境整備をということだったんですか？

「はい、清掃作業をした山林からは、地形的に雨が降ると、ちょうどホタルが出てくる堀にごみなどが流れてくるんです。全部入っちゃうんですよ。」

○すごいゴミの量でしたね。

「4トントラック3台分でした。大変な量でしたね。朝の8時半から始まつて、全部積み終わつたのは12時半ぐらいでした。」

「車で持ってきて堂々と捨てて行くんですよ。パソコン・テレビ・電気釜・洗濯機に扉扉まで。ないものがないぐらいで、ものすごい量でした。」

「でも、最近もすごいですよ。片付けた矢先にもうゴミが捨てられてました。」

「方付けているから、まだこれで済んでいると思います。誰かが捨てたんだからと、1個も2個も同じで、私もいいやと。そういう気持ち人間にはありますよ。」

「10月から、パソコンのリサイクルが義務付けられるんですよ。」

「今度はパソコンの不法投棄が増えるのかなあ。残念ですね。」

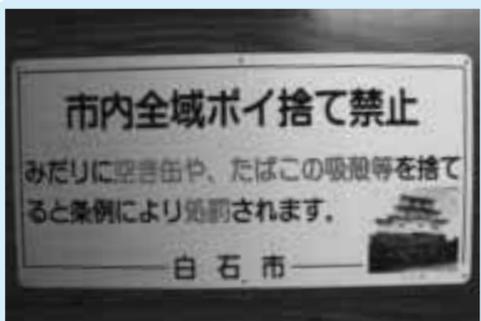
広瀬川のホタル再生活動に取り組むNPO法人「広瀬川の清流を守る会」とも交流を深め、活動視察や講習会を実施するなど、守る会の皆さんは、着々と活動を進められ、6月28日には、市内外の方に参加を呼びかけ、第1回目の「ホタル観察会」を開催しました。

「あの日は日中雨が降っていて、夜も寒かったからね。飛んでたというよりも止まっていたという感じで、ちょっと残念でした。」

○観察会は、来年も実施するつもりですか？

「外に向けてのアピールも兼ねて、観察会は継続したいですね。」

「1日だけじゃなくて、何日間か期間をとってガイドを置いてみたらという提案もありました。また、『ホタルの里』の看板設置や遊歩道の整備もできればいいなと思います。」



▲市内各地に掲示されている啓発看板

「ゴミのポイ捨て・不法投棄は犯罪です」

市内各地では、公衆衛生組合連合会と市が事業主体となつて、春と秋の2回実施している「市内一斉クリーン作戦」をはじめ、自治会や企業単位などでさまざまな環境美化活動が行われ、多くの市民が清潔で美しいまちづくりを推進しています。

しかし、この薬師堂地区のように、依然としてゴミのポイ捨て・不法投棄が後を絶たない状況にあることも事実です。

「ご存じです。ポイ捨て禁止条例」

白石市では、「白石市空き缶等の散乱の防止に関する条例（ポイ捨て禁止条例）」を平成10年に制定し、違反者には罰則規定を設けるなど、散乱ゴミのないまちにするための啓発活動を進めています。

### 「白石のホタルマップ」作成にも取り組んでいます

「市内の小学校5・6年生約800人に、ホタルの発生地についてアンケートをとりました。各地区の発生している場所が、おおよそはつかめましたので、あとは補足的に足で歩いて確認して、来年までに白石市のホタルマップを作成して、小学生や市民に紹介したいと思っています。」

○福岡小の5年生は、7月からホタルの飼育を始めたそうですが？

「7月15日に学校に行つて、飼育の仕方や、ホタルの生態・生息環境などを教えたくて、『どんな天気によく活動するの？』とか、『白石にはどれぐらいホタルがいるの？』など、子どもたちからいい質問がたくさん出てきたので感心しました。その後も、ちゃんと飼つてくれていると思います。」



▲ホタルの生態について教える事務局長の佐藤さん

### これからの会の活動や、夢などについてお話しください

「ホタルの飼育や放流、地域の環境美化といった、現在取り組んでいる地道な活動に加え、ホタルをひとつのテーマにしてイベントとか、みんなが楽しみながらホタルを鑑賞できるようなものも考えてもいいですね。」

「福岡小の5年生ばかりでなく、広く市内の小学生に、情報提供や飼育体験をさせてあげたりできればと思っています。」

5年後、白石ではホタルが飛ぶのが当たり前

「今、市制施行50周年記念事業で、『50年後の市民へのメッセージ』というのがありますよ。ホタルの里では来年も50年後も飛び交うと思いますけど、50年後の白石は、ホタルが飛ぶのが当たり前みたいな、全国的にも、白石というのはいまんとホタルだなあと思つて。そこまでいけばすごいなあと思つています。」

○8月26日の「知事さんあね」のときにも、知事とホタルの里について話されましたよね。浅野知事も「ホタルサミット」を開いたらどうかと。

「確かに、『ホタルサミット』のようなものを、全国に呼びかけて、お互いの地域の自慢をしてもいいし、自然環境を守る運動を広めていくというのでもいいですね。」

### 白石の各地域が集まつて「ホタルサミット」を

「斎川の人からは、『白石のホタルサミット』というのを開いたらどうだと言われたんです。それでは、そちらも組織を早く作つて、ぜひやろう、と話したんです。」

「小原の方でもマップをつくるらしいですし、小原、斎川と、地元から広まっていくというのはいいことですね。」

「ほかの地区にも、うちのようなホタルを守る会があれば、そことタイアップしながらNPO法人化というのも、夢としておもしろいですよ。」

ホタルは自然環境のパロメーター

「ホタルが、自然環境のパロメーターになるってというのは、すごく分かりやすいですよ。飛ぶ、イコール住みよいまち、となるんではないでしょうか。」

「ホタルが最終目的ではなくて、地道な活動を通じてホタルを守ることによって自然・環境を守つていこうというところまでいけばいいと思います。そして、イベントを通じて関心を持つ人も増やしていくと。」

○いろいろ興味深いお話を聞かせていただきありがとうございます。来年も、ホタルがたくさん飛び交うといいですね。

きれいな水、自然のままの状態でしか生息できないホタル。ホタルが生育できる環境を維持し、山や川をきれいにしていくことは、そのまま人間にとっても、快適で住み良い環境を維持していくことにつながります。

「50年後の白石は、ホタルが飛ぶのが当たり前になってほしい」守る会の方が夢を語ってくださいました。

来年4月で50年の白石市。これから先の50年に向けて、白石市民の財産である豊かな「水」と「自然環境」を守り続け、次の世代の市民に引き継いでいくことこそが、「50年後の市民に残す」一番のメッセージではないでしょうか。そのためにも、市民一人ひとり、そして地域で、何ができるかをぜひ、考えてみてください。

